



# 模擬講義一覽



学類	コース	講義NO.	開講時間	会場		講師	講義テーマ・概要
				建物	教室		
人間発達文化学類	教育実践コース	①	11:45 ~ 12:15	L棟	L-4	阿内 春生	「教育行政学ってなに?」 「教育の行政、政策を考える研究」と聞くと難しそうに聞こえるでしょうか。でも、教室も先生も通学区域もみんな、いろんな制度で決まっています。それらをうまく決めたり、適切に動かしたりしていくための研究が教育行政学です。教育学の中心とは言えませんが、とても重要な研究領域です。ちょっとのぞいてみませんか?
		②	13:45 ~ 14:15			森本 明	「子どもとともに創る算数授業」 小中学校に出かけ、算数・数学の授業をのぞいてみれば、きっと子どもたちの自由な発想や個性ある発見に心動かされることでしょう。子どもは、どのようにして算数・数学の仕組みを発見していくのでしょうか?本講義では、子どもの発想や発見の一端に触れ、算数・数学を学ぶ・教えることについて一緒に考えてみましょう。
	③	11:00 ~ 11:30	住吉 チカ			「心理学とは?: 認知心理学の観点から」 人は絶えず多くの情報を受け取っています。それらが生体内でどのように処理されるのかについて研究するのが認知心理学です。本講義で、認知心理学を通して、現代心理学の研究への姿勢などをお伝えしたいと思います。	
	④	14:25 ~ 14:55	保木井啓史			「幼稚園・保育所での子どもの姿と保育者の技」 幼稚園や保育所では、「環境を通して行う教育」、「遊びや生活を通じた総合的な指導」と呼ばれる方法で教育が行われています。その遊びや生活の中で子どもたちが見せる、面白い・愛らしい・したたかな姿や、保育者(幼稚園教諭や保育士など)が駆使する技の一端を、本講義で紹介いたします。	
	特別支援・生活科学コース	⑤	11:00 ~ 11:30	M棟	M-1	千葉 養伍	「生活の中の「食」」 健康的で自立した生活を支える大きな要因として「食」があります。私たちの周りには多様な食品があふれていますが、健康への影響や安全性の問題など「食」に関わる問題がなくなることはありません。この講義では、私たちが生活者として「食」に求めるものは何かを考えます。
		⑥	11:45 ~ 12:15			高橋 純一	「障害理解のために: 障害への偏見と差別を考える」 社会ではインクルーシブな環境の構築が謳われています。しかし、社会一般の障害に対する偏見・差別は未だ強く残っています。本講義では、障害学および心理学の観点から、障害に対する偏見・差別の形成と変容について説明することで、障害理解の促進について考えます。
	芸術・表現コース	⑦	13:00 ~ 13:30	音楽棟	音楽講義室(201)	横島 浩	「メロディーと和音の関係」 美しいメロディーの背後には和音がひそんでいます。和音は複数の高さの音を合成したのですが、その和音が移り変わることによって変化が生まれます。実は、メロディーの背後に充てられる和音は数限りない...よりよい和音を充てる方法を探ってみましょう。
		⑧	13:00 ~ 13:30	M棟	M-1	加藤奈保子	「西洋美術への招待」 ひとつの美術作品が生み出されるにあたって、そこには作者や注文主だけでなく、制作当時の社会や文化、宗教など様々な要素が深くかかわっています。この授業では、バロック時代のイタリア絵画に注目し、作品の多角的な見方と美術史研究の基本について分かりやすく説明します。
	人文科学コース	⑨	11:00 ~ 11:30	M棟	M-2	半沢 康	「日本語学入門」 日本人の母語である「日本語」を科学的に研究する学問を「日本語学」と呼びます。高校までの国語の授業ではほとんど触れられることのない「日本語学」の方法を紹介します。
		⑩	13:00 ~ 13:30			初澤 敏生	本講義では、地域文化の研究手法について具体例に則して解説します。「文化」というのは非常に曖昧な概念です。そのため、「伝統文化」も「現代文化」も同じ「文化」として包括されてしまっています。本講義では、その定義から始めて、伝統文化・現代文化双方の研究事例を取り上げたいと考えています。
		⑪	14:25 ~ 14:55			佐藤 元樹	「一歩進んだ英語学習: 英語学の研究紹介」 英語母語話者であっても、英語の使い方や単語の使い分けについて上手く説明できないことが沢山あります。この講義では、実際の卒業論文で扱われているトピックを取り上げながら、英語学の研究で明らかになったことばの使い方や仕組みについて紹介します。
	数理自然科学コース	⑫	11:00 ~ 11:30	M棟	M-22	水澤 玲子	「花のつくりを観察しよう」 身近な植物を題材に、花のつくりを観察します。花は、かく、花びら、おしべ及びめしべから出来ていますが、おしべや花びらの数は、植物のグループによって決まっています。花のつくりが分かれば、図鑑を使って植物の名前を調べることも、出来るようになります。
	スポーツ健康科学コース	⑬	14:25 ~ 14:55	M棟	M-1	川本 和久	「スポーツの成功は、遺伝か?環境か?」 「体カトレーニング」や「トレーニングマネジメント」での基礎となるテーマです。スポーツ科学の発達で、遺伝子レベルでのトレーニング方法が開発されています。ウサイン・ボルトの速さの秘密などを遺伝子レベルで考えながら、トレーニングの可能性を考察します。
		⑭	13:45 ~ 14:15			安田 俊広	「運動生理学からスポーツを考える」 運動生理学は運動時の身体の仕組みについて研究する学問です。身体の仕組みを正しく理解することは、競技力向上や健康増進を目的としてスポーツをする際にとても大切なことです。この授業では、運動生理学の基本的知識を使って身近な運動・トレーニングについて考えます。

学類	コース	講義NO.	開講時間	会場		講師	講義テーマ・概要
				建物	教室		
行政政策学類	地域政策と法コース	①	13:45 ~ 14:15	L棟	L-1	清水 晶紀	「原発再稼働をめぐる法と政治」 現在、原発再稼働の是非が大きな社会問題になっています。ところが、再稼働を容認するかどうかについては、誰がどのように決めているのか、傍目にはよく分からない状況です。今回の模擬講義では、原発再稼働の根拠となる法制度とそれをめぐる政治的動きを説明します。どういう制度が望ましいか、一緒に考えてみましょう。
	地域社会と文化コース	②	14:25 ~ 14:55			新藤 雄介	「想いを伝えるなら、どの方法?—メディアとコミュニケーションの関係—」 友達からメッセージをもらった時に、べらべらのコピー用紙なんかじゃなくて、こじやれた色の気の利いた紙の方が、気持ちが伝わる感じがしますよね。たとえ、書いてある内容が同一だとしても、です。今回の講義では、ありふれた場面に潜むコミュニケーションの意味を、メディア論の視点から学問的に捉え返します。
経済経営学類	経済学コース	①	11:00 ~ 11:30	L棟	L-2	朱 永浩	「東アジア経済の構造転換」 本講義では、東アジア地域の急速な経済成長をどう捉えるか、日本が東アジア地域のダイナミズムとどのように関わらなければならないか、グローバル化する世界に生きるにはどうすればいいか、について考えます。
	経営学コース	②	13:45 ~ 14:15			奥本 英樹	「わくわくからはじまるビジネスの本質」 ビジネスでは、まず「ミッション」として、なぜそれをやるべきなのかをしっかりと考えなければなりません。次に、そのミッションの達成に必要な「ソリューション」として商品やサービスなどを考えます。そしてミッションが達成されると社会がどう変わっていくかという「ビジョン」を描くことも大切です。この講義では、こうしたビジネスの本質をわかりやすく解説します。
	経済学コース	③	9:50 ~ 10:20			M棟	M-4
共生システム理工学類	エネルギーコース	①	10:50 ~ 11:20	L棟	L-3	佐藤 理夫	「実験&トークライブ 冷たくてあぶないもの」 液体窒素やドライアイスで遊ぼう! 「物質の基礎」から「ものづくりの現場」まで、身近な物質を例に実験して解説します。冷たい実験をして涼しくなり、あぶない話を聞いて背筋まで寒くなって、猛暑のオープンキャンパスを楽しもう!
	地球環境コース	②	11:45 ~ 12:15			横尾 善之	「水循環研究の最前線から未来の大学生へ」 水は飲料水・食料生産・産業を支える資源ですが、豪雨やそれに伴う洪水による災害も生じます。このため水循環に関する研究は、人間が水と上手に付き合うための学術的基盤になっています。本講義はこの水循環研究の最前線の一部を簡単に紹介します。最後に、私の経験と反省を踏まえて、大学生生活の過ごし方を一緒に考えます。
	物理・システム工学コース	③	13:45 ~ 14:15			山口 克彦	「実験&トークライブ 実験を通して知る物理の世界」 実験を通して、低温と真空の世界を見てみましょう。低温の実験では、電気の流れ方や磁石の強さが室温と比べてどう変わるのかを観察して、ミクロな電子の振る舞いについて考えてみたいと思います。また、真空の実験では、空気を抜いた箱の中で気体や液体がどうなるかを観察して、大気圧について考えてみたいと思います。
食農学類(仮称)	—	①	11:00 ~ 11:30	M棟	M-23	新田 洋司	「このごはん、おいしいね! お米のおいしさに科学的に迫る」 コシヒカリ、天のつづ、ひとめぼれ、あきたこまち、...いま、いろんな米がありますね。「粘りが強い米」、「弾力がある米」、「甘みがある米」など、どんな米がおいしいのでしょうか? おいしい米を作るための栽培方法はどのようなのでしょうか? この授業では、米のおいしさと栽培に、科学的に迫ります。
	—	②	11:30 ~ 12:00			平 修	「食べることを科学する」 私たちは、「食べる」とはやめられません。それは単なる欲求だからでしょうか。サプリメントで必要な栄養素だけを食べても身体は健康になりません。「食べる」について科学的に考えた時、これらのことはどういふ答えになるのでしょうか。全く分からないので研究しています。
	—	③	12:00 ~ 12:30 13:30 ~ 14:00			金子 信博	「成長産業としての森林業」 森林業とは木材生産を行う林業だけでなく、森林の恵みをうまく引き出す「なりわい」すべてを含む言葉です。先頃、森林の管理を進めるための法律が国会を通りました。みなさんが社会に出る頃、森林を持続可能に利用することのできる人材がますます求められるようになります。森林について学ぶ意義について説明します。
	—	④	13:45 ~ 14:15 10:30 ~ 11:00			林 薫平	「君たちはどう耕すか」 地域の中に農業があることが、現代の社会の中でどのような意味をもっているのか... 若い人たちが、農業に携わっていくことで、今のような価値が生み出されているのか... この模擬授業では、人類史の中の農業の位置づけを概観したうえで、現在の福島県や東北地方の農業の実践例を紹介しながら、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。
環境放射能研究所	—	①	12:30 ~ 13:00	M棟	M-22	塚田 祥文	「放射性セシウムってどんな性質?どこにあるの?」 大気圏核実験、チェルノブイリ原発事故、東電福島第一原発事故などによって、1940年代から環境のいたるところに放射性セシウムは存在しています。それでは、我々の身近な環境である「土壌・水・作物」のどこに放射性セシウムが存在しているのでしょうか。講義では、図を使ってわかりやすくそのイメージとメカニズムをお伝えします。
	—	②	13:15 ~ 13:45			コノプリョフ アレクセイ	「ロシアで科学者になったわけ〜ロシアから福島へ〜」 ロシア人のアレクセイ先生が科学者になるまでのこと、チェルノブイリ事故からの研究と2011年の原発事故後に福島に移り住んで研究を行うと決めた理由などを簡単な英語と日本語のスライドで講義します。福島をフィールドに国際的な研究者が活躍していると、次世代を担う高校生にお伝えします。
	—	③	13:55 ~ 14:25			平尾 茂一	「放射能で見える大気輸送現象」 私たちの身の回りには放射能は大気輸送のトレーサーとして利用することができます。大気汚染物質などの大気中にある微小物質の輸送過程を理解するために、放射能がどのように役立てられるのかを概観します。